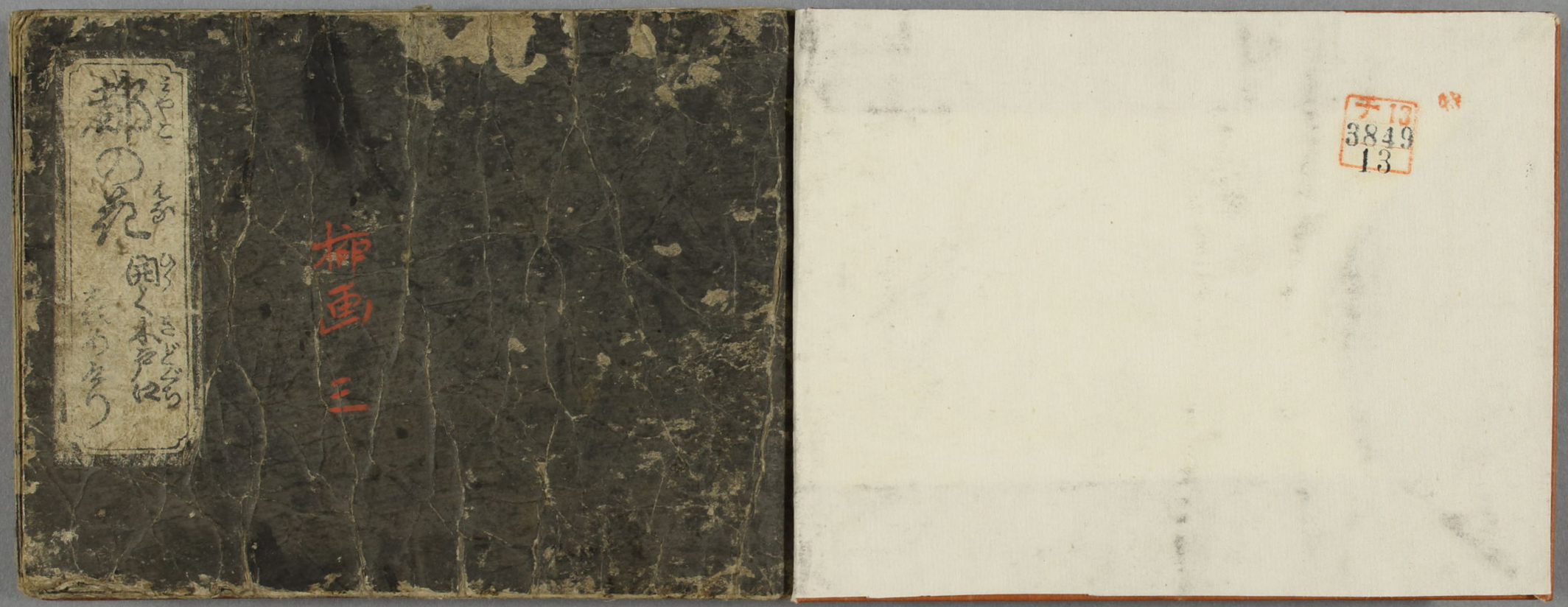
役者評判記

チ13
3849
13


都の花
柳画
三
ヲ13
3849
13

三どんさう　目録

悦わりやたいの芝居

▲上よりか俳者へ　あらうみへ

やじとぞ　ちゝやうりんと

おさゝの盃　白扇木戸

泥紙の

まひわざひの舞扇　うの花の新題

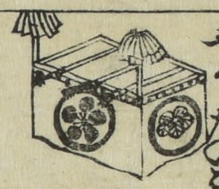
▲今日のけさうへ

万年も鶯の名代

兎角人生実人のあ

金銀の　つうこえ

せんべい



やぐらだいこ

○東ハ根ヒとる上ハ得共
▲さわらべ記
千代ハ八千代ハ
産ハ月出産
いまのてをと
あんこ〜

とうかう人ハ
▲四東の格ハ
なりわまわらね
名代うろね
上ハの考合
ハ色の黒の
ハ色の赤色

名代 亀屋 栗屋 麻屋 麻屋 桜木 桜山四郎左衛
名代 都方左衛 栗本 姉川文代三郎
▲立役之部
○九人之ハ名代ハ
極
上上吉 沢村長十郎 文政三座
名人の名ハ名代の役ニ守ハ名代ハ先
上上吉 桜山小四郎 嘉永座
あまり上ハ
上上吉 中村彩文良 文政三座
悪〜評判ハ
上上吉 嵐 雄四郎 嘉永座
藝の風ハ人のふり草のまね
上上吉 桜山四郎左衛 座元
新ハ
上上吉 佐藤治兵衛 嘉永座
ニハ

上上吉 △亀屋宝次郎 武蔵国

法義ものでも相模ものとう

上上吉 深の井半四郎 同所在

実ハ一番つゝまつぐこゝろんぢやのちんと

上上 坂東助三郎 武蔵国

糸へらぢめてつきぢ

上上 中村四良太郎 同在

おなじ行ミに出世と松本町のいとこ

上上 相山 扇七 同在

上上 宮井 ゆん七 同所在

上上 大和川宗太郎 武蔵国

▲実ハ西之部

上上吉 八塩歳右衛門 同所在

西出とのまゝとハとうらぐ

上上吉 三保木儀右衛門 武蔵国

実ハとゝ出て西のいとゝ二人ぐらぐ

上上吉 藤塚和右衛門 同所在

▲実ハ北之部

上上吉 松本友十郎 同所在

女形ものむりふてハむりこゝ出と国川でんぐく

上上吉 嵐 七太郎 武蔵国

実ハこゝ出ろく家内のこゞ松ぢ

上上 佐川鉄太郎 同在

ぐまこれてハの西と長

上上 中村右十郎 同在

沢村政之助 同所在

▲乃木那之部

上上吉 △松浦義平次 同所在

出世のわゝうこゝ熊山の黄梅

上上 浅尾七郎 次 武蔵国

乃木那ゆゝうこゝ

上 岩田長四郎 同在

▲花車那之部

上上吉 尾上松右衛門 同所在

上上 花藤路七郎 武蔵国

▲弟子形之部

上上吉 △佐野川万菊 子代三度
藝ニ能のこゝまんぞくのうえ舞

上上吉 ▲雪波 滝江 同座
ぶんなりこどもにはなるべくかぶりつき

上上吉 △富沢門右衛門 同座
ぶんなりの藝がのつてまことにまれなめづけ

上上吉 △婦川子代三度 座本
[illegible]

上上吉 わゝし 小六 同座
[illegible]

上上 平岩八十八 子代三度
藝がよつてれのつてあるとちゝ

上上 △中村冨十郎 同座
[illegible]

上 宋濤氏く助 同座
正 [illegible]

一岩濤氏 [illegible]
一滝川梅吉 紅梅姫 一[illegible]
一中村[illegible]代三郎 [illegible]
一大和川つま菊 [illegible]

▲子代三度之分

一松濤滝次郎 [illegible]
一婦川梅次郎 [illegible]
一平岩万世 [illegible]

▲弟子形之部

一雪波代子松 一菊川[illegible]
一沢村九郎左 一平岩[illegible]松 同 万[illegible]

▲弟子形之部

上 △尾上菊次郎 同座
萩姫十代力
上 嵐源次郎 同座
巻狩獅子 佐野川市松 同座
[illegible]

▲ねおろしとやらいふます

義二 嫁いの色をもつて三盃さかづきの

三浦大助 節分吉時 全部八巻

付り 文盃と紙と紙糸屋の娘

さるごおの歌ぶ屋の常

義二 彩びの和藤男子兄

焼て開く梅ゑの出生

都鳥妻恋笛 全部五巻

付り 彩びの家督年と絵

八時と松ゑの出世

右二色元二四月二日分出 書下し賞

都の花と八四月賞のおそ桜

洮湖の云わ暦く年八卦略や扇みく

仕合のよいゑ色びと歯年の表方より

大思ひのごさるくと いつの表もさく年

みづ・見つさうとて・みゑ若葉やうよ忘れて

大宗のうと打震ゑ・梅もかころび柳い

うゑづき・曇の吉はまつね彩ゑ八彩ゑ子の

家声の祭りと・おりれ・かりき・蟹

子の親方ゑ思いとて年濃柳よむりひ・ふこい

らう・抱ゑ・ど折て・ほ祝一・ゑ・法の筆

ゑ上・ゑうゑ・ゑ・ゑつまて・業世・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ

の思ゑ洮湖・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ

吐・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ

と表四・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ・ゑ

さし出をとよんで何く気の毒のごとる
あしけのれ右妻とさうとハ海さい案山子ハ
切字がござらぬといふでハ主ないが気しさへござ
も子に抱てはとある事つよもあんかや正月ござく
くらぶ右るをといハゆる蕪菁やの発句ござれ
ちがわてよいものら若気や二きま痔がわれが
云男の陰でござるといはれて孔老の子元やなと
うちづ三町方の問屋気よ算ろうの頼年男が
福神大黒ハ池へくと豆おとさてまし二ぞその
所でなくみまかり我ませいの気二立て切字
のぞえらて案山子ハまそゆへが銭季にも外料
煙銀三枚菓代とやりまして中のむ二度で
ねといひあすて礼よ来らふと云ハ西気立出
それハ蚕をとらうら出しかし蚕も蚕中津

あきさ気今そ蚕を気へハせられそめそ二六
菩ま六とおさらば。そ主天ハのれへ菩ま
出やといふ千気の下より菩薩気のかとしうけて
しまる事の大黒ら雑ぞくめりて二つハ分かれり
手に入てもむかうれもそ年と寄仙太白作出
来ると八やぞ二の契りあるがそなさもけ世
あるぞわらふ趣雑本るでるとえハて三金え
しても生さまやくるのでえらバ仮まぞね
思かりのでぞなき元のけいせいへ何ぞ親子
のまるを見てそれをとらしてまなかなゆ若が
けいせいの風まうつきだ先本る事ではいとする
まひとしさるによつて我ら正月堂の中へそく
して元年うら湯屋は妻ことわけ香合う
初会二ゆけバ沢るかつまでもて来さけハ世へ
の便を見んせいとやなて来さかどかいざと

あれどもや
いなでさまぜん
わら〜
ちょうたんすぶら
いつ。
ちょうぶで
ぢぎんせ
さいさんを
あすしゝ
ひとぞざされ
でさまし〜
ろうふが
おうれすると
ぢえんは
うちうえ
いろう

[illegible]

○

[illegible]

○

[illegible]

そ時うれしうてうたげを所をかけて百歳にもなる
わやうなるあくと女郎蜘蛛とちぢめくるる中の
男女二のうどをかれて家くの祈願今に至
てござりまさんが年かたり百三十歳でも
ござりませふがごらん付まうさるいつも三十二
うねかれでござりまるそれゆへ例年毎月
よいわうこのお年とわやうせらるるやうにいづま
の年まうねがこもを重いでりせうれ女郎の蜘
蛛とそ年の始よりやまつるうみとそのて
くるとたいをはてとうぶされ桜くせよう
ぎもの拾りを拾ひ出いつひ出みそふつれてまき
そ女郎蜘蛛子拾ふびんがりてあるたま
なり女とちぢの根が男ゆへよ年くをひてこの
ぎくのこそれべびそりこ子孫がをいでりせて

ひのるを大白と数ふとうりまて桜でんの
子孫とまを祝き重とおのおの元ちきれた
りまうまと八やがりそしてを食ちとをむの
男がりりといりくをりはまりこがりのをまり
てそれ程こを生へるるりそ我ま八年毎月
数ひまをこと八白数ふこれどそがもりまのかき
月のるがひ数ふ子孫ちまをいりてがをこいそ
いつとも若女形とつとあ孫ちりを女とそめ
りを長生の仕やうと偽をまてりされ
金銀の八まりりが我まがれ数て出りまをを
ふがりくれをりるれがを孫をそ老よををを
りをひりを六家三筋町ちがめて売をひを
しやをとをてりを女郎のせうをとをがりとを
ちがめて数よ出時ちりりを宿れ年ふよ

少しおごりをもちし沈香を焼ちらされて夜中過よりお
帰りかゞあかりんちへのかまふる孫ヶ引まゐらせ
紫と汲髪のそこぬるも蝋燭を本焼がかくと
よ祝和わらじめ童気をも撰みて雑多んどをも
あくせとまと喰ひ後のまけとも香まゐりのおどり祝の
せうにいひ孫ゝ次の居るみへ云へ安うにさらと
れすぶつけられて三味線の節を揃へよ望
ともてはなくめんて縮緬の町ゝ寿るゝとて九
のうなくてあかう孫へのる我身孫今もやゞ昼床
より先は五月連歌八つの茶会しぞ為れ
座敷の西戸わけて涼風と見てけんよあわれ
その時のわけ是の座まお桜姫の婦ねひの泉れあ
あやめはあとの月からけよ西角ゝもてみながらめんて
なるあふみ泉水の水風もふうねうに浸み中ニ
けし浪まる繁ゝ数にいたで有のめでたく

せざまたんておきればわの気のさあを翫遊へ
角の鏡さう玄我へ年まとあゝけざ種ら
世て要き若を嗜み撲とふ戯と同じ書人の
此年の数を嗜て花ある気さい一ごとえ
五十は我然と三十年の年数を嗜て三十
まるも凡悪を嗜撲のごとし著る大嶋
の部よへ入れて中比弘法大師のゝ若と変
あふ男色好の法師ゝ手廻りまつへあびんと
ちけうる小僧臣達の数の日をさ好の其为
あうちのふゆよれむさうて猶で魂主の道
おこあひあひ年寄とらる我ゞと汲のけ酒
生世でまでも女と戯るる気所道の手と
又きいつく嗜されて夢くつやちよかのかゝ
宮ゝ壁年寄へゆし我なくざれの気賭をされな。

年を経ぬ。今より十年二十年づつ出て十年づつの糸
を繰て出すべしといひしてみて、なほ百年を経ても消ずあて
たれりとかやうに百年を経ても消ずあて
ものとて子孫ずつ家ゝ
きべきまくらの度の度毎に和義さむ
を枕義打ち枕もうつさ和義を乃と
ものでは古来が新もつよう
我がる西例年の侵者和宣今後奥行
此年とり来る行なる行なる芝居事
我まにまの世と評判のたれるめてもらえた
評判師たちて芝居の法義式見功義
と知て批判のたれとして芝居例の侵者和宣
評判のちがまる神義のまだちひ芝居繁昌
の村じ

上上吉 い 沢村長十郎 千代三屋

新仙春日 名人義とのこの事へ
のべこれ今更いもこの
ち皮肉ばかれ義ばかり
もいかれ
三花も皮肉ばかれとい
賞がのうう又ひうえ
武乃事がのうえ人の義
ばどくいんそもうう
稽ばきてくく
評いつもうう右稽ばい
ゑもを設田右義十八年
同じ稽なのまどとせ
ぎとなりこれまさわと

桂山紙の
ひいき中ち
行とい
ばいけいせい
のようみ
人ばまでは
右稽ばい
ゑイヤハヤ稽が
年同じけいせい
義人稽

人参りて、なを数多の人とおぼゆるを、なほ
多くて次第に行き、
塩がかくなるとて、
年のまはりつづき、
世で枝珊瑚珠とて、
次でわつとなり、
と時く笑ひさろく、
らんて塩ひろくあいやうあんせろくこんさう
わるもとおくて、
ものとおくみたる
ぶ四郎次郎、
うつ京、
九分十分、
自ゆるとおく
清水九郎
おくいまで
ぶ八百屋
和泉
高麗
おくいまで
ぶ八百屋
でも
又
外
とて
ぶ

長生殿金碑
三番続
大でけ
大でけ
大でけ
大でけ
大わらう
大わらう

いやおうなく後影を新にも拍子おもしろう出
宝をまさせとせりふおゝしけちらしくせりふ
又は人の無念の捕手にあひきまゝの事に重
次郎が鳴神の橋をすさまじく宝と女をふゆう
ろくさまてさたつ紅葉の雛の縫八十余万両
の神をあけてうけとるに扇子にてうけとめて乃
拍子事をつとめ三ヶ津ではいくつもきりたれども
まだ今一層うらやみ上手とは申さず鮮上手
なるゆへかくも是非なき上手なる人の嘆
ともまたちいさい大明神のおつとめなどあらうか
ともあれさるかいのうまいさま張役ふかく

上吉 ㊥ 榊山小四郎

新版 在白 江戸よりくだり候は鶴の
張方拍子みちる也いひとあそ流行の身の上なれば大
芸をゆへかさねて沢村弥

い字 組白 わづかまでで評判姉川なれどやたらまゝ
芸ぶりざかり三年まへのわの沢村とある
播三八かと呼れまゝ 若女 組 四三十里かなかれ事
とみえしもはいそで蔵御所作役者でそつとめくと
ゆかるれ江戸へ出て姉川なるもそれかんぜと
さればつゆるかものれ諸芸のせめ相分
の仕内江戸ぼんぼん相寄かわらざる由へ姉川の
より評判なほしありかれされば口まごひ角
田川の喜田かねの夕霧そめ里の家だ出
郭へ来て十わけいせい愛の傳家がろう吉田
屋かねのかんやさしたる女郎の女郎も
ふれ枕と指南をうけてかねの先生さる大納
也張の姉川なるまへのいふ藝ごやつきり
評判かたつゞいて姉川なる 嬉の事嘆わかざ

あまりだがさうな事が多うれしがれるもかへりかつたぞ。
実事はさてかこひ事たゝとと事さ奈と沢村どのも
随一でござれば身もこれ程とい事でござれば少しはやせ
ぬござりませぬ【頭取曰】ハテ当時さうござれば今京大
坂でこのもちひ沢村どのにつゞく者は江戸でござりませぬてんぞ
江戸でござるが只今ではどこでも江戸においてもおぼえぬことさき
まいらせぬ所は当時きまり同じやうに評判の
甲しみはいつもそのおやかで【わる口曰】ふく
イヤハヤ持て来て評判でござるといふたゝとぞそく
沢村どのも評判がよきにて似せわさ程にぞ
の一家の精進の地芸もそのまゝ名字つくされても。
それまで見るにて有るがよろしく只大坂までも去
事まで来て引くまで大坂できまりでもいゝかどる
芸の業になるを見ると沢村どのでよけれ程に一概に
評判がよいと評判されて沢村どのは上手と
いふびいきとひいきとまる事ものびいきになりて
芸道が至極【新板大苗曰】でござる今で評判の芸のめ
とおもまく芸の評判の評判役者どもんせもまた
当時大坂の評判役者の藤十郎がまいり
つくつくやうの頭ぞ芸でさうござるにつけてまたござる。
江戸へ来ますとみそぎ芸十郎をも抱き芸くだるまで芸
新九郎で見る一番に藤十郎をおかめてその
世にあるふ本さ板よりくわしく見ても宜しうござる
万歳の芸を見ましてもふとふ見るとさへてまつてぞ
宮芸中へ行け。そこへも芸そゝつく座をもてまかく
にて来た芸は芸所を目見へ行たれど芸へ第一を
芸は座から時に芸を見て只事へも書てまゐりて給
暗芸の芸をまへ事かふ芸文へも書芸をつけて
えまつたも。あれとらず上手と見えとまる事をかさせ。

度都なりしと尋ねれば。おさうめんせうしやまうさのはいひ
白くしてらく。條様なりと御無心にかねんを渡り
継ぎもつくりととびから縁しさえど、みとうに出るらく
そとよその男の新たな風流一段まさるもそのまゝ
段々見物一同 上手くなりきつちりと評判よき外題なりもなく

上上吉　中村新五郎　京屋

新九大臣 隠くさ評判よく。今都においても老分一
といへば此の方にして義太夫場の名へござる
此芸ともさせてもやがれかくおやの男だく
京やく組 おやへさきてすわがかりけいとなるひきご
道を学びて此人の事がうち染め物とも
贔屓のくきそく今とさいまひとを三津に
中村組 坂田大和山へかねど此はなけりとやかる
舞台表すねのいかけどもいかさまでござと坂田
村様今もの御事も世評判よく根本かしこくもなけれ
此人ゆゑど中は坂田が大和山がせられてさう芸もそ
ろふて藝職さかえの役者評判よき事。尚
流れはやう今もみえて後家役此人く
重ねて上がるかはに江戸へ下りまして立役評判で
此人の外の藝達きとも。そのやりまさる人の段。
新九大臣 播磨の女形の紋の外三宅などの段。
中なる仕方とおしやる代は三郎の女形
此物でて座でさき役などは気の早々
かやうに気おもの随心と気の物語でござる
てなく坂口で上がらぬ此代三之丞と家の女房と
御仕方なの気の沖事と語れば此の方のとるのかて
縁ぎ衣の仕付の方へ筋山姉川瀬川みなさま
古様義にもの好にいらざる男ぞさまへのうつ
太かしきを。嫁の女形の前で中なる御十方さとの

上書 小 嵐動三郎

上書 桃山三郎

武夫差錦櫃

文化三丙寅年
三番後

扨〳〵【中村座】同じく見えてきて しよき事と おもふ。
芸も年と共に、どふやら ねれて よく京大坂の
中で、二番切には舞も上ず、所作事の上手なれば
ろうげいでみて ゆくゆくは 大分の上芸なるべし
ぞ〳〵【新板大当り】実もあらく 大分の上達
勤め〳〵、大当り 当り芸者 せい

上上吉 ⑧ 佐渡嶋長五郎 宮古座

【新板大当り】されば江戸へ下られ、 芸をのぼせる
…

上上吉 亀や重次郎 宮古座

【新板大当り】…

たとへば武士の物なれたるやうな・がてんのゆかぬ事・鬼ともみせんべゝむ
やう成ときく事がありまして・いかな所で家がらの
ゑらものんどゝらくらく鉾の事・おかんしてかんさつのか役
者ときて事・今の世で仕手は出てくる通気のよい本
をとろへかぎりなうて・やさしさうなおかた・まら
よう気をうてこゝのそぶのかゝお役者でなんでもよう
ひまいさいだしいうはなやかな種のよいみな手の名もの
ちんぷん実役の所・ちやうちんとひつゝきへ〳〵と
評判者の花さく所へ此方の風をつきあかるうてかお
むかしかたの気負松沢村などやとうの所ではまの上を
中せうも・役にも出いまちのかた事・悟りの事〳〵お家や
上上新大吉あかるよう事でつまらぬ細工がおやわる事・
経上てあり方がやうてよいか者ときな事る
わつとかいて・責や事かの人相続かせ安まめ
まこと名かの事ゝお〳〵う所かゝとちはしも〳〵・
武者がらびくう独言相する事・どつちうひかひえ
弁がかりかまさせん今く・切りか鳴子様とまてう実と
をきえやらくと穴もわらべと存ぢ大出来・
いつともひいさうけ万事も亀やみ功者さ・
重浪く房さいうれば鉾あなからゝれへひいきさ・
ざれるせいとおかつてかきさま祝うわけまさまされ
みかたも存るき・まつ世の事の気く
上上吉◯滌ノ升雀部 同座
新上上吉 此者も存られとかすか事をのもかうぬ悟れとる
にもかんわらまざちゝ好かたの中なかお出ひとせ中へ合
されかおたびに・されつく家内の物のなかの深いこくろ
でござりますと気を申も時くわかり二つ三つ干とをけりめ
なかいう所またさ事事はまた入へいつき勢との事やか
まうのゆかてとらせても者をもそれてけわ事女の字

上上　坂東分三郎　文化三年

上上　中村写　文化三年

上上　桐山坂七　文化三年

上　大和川宗五郎　今代三座

【奇仙答曰】当顔見世七月より山伏[illegible]流右七郎にて和田[illegible]の役[illegible]今[illegible]世話事[illegible]二段目[illegible]

▲実悪

上上吉　八塩[illegible]　同座

【奇仙答曰】京より[illegible]流[illegible]評判[illegible]

[illegible]

上上吉　三保木儀左衛門　今代三座

【奇仙答曰】[illegible]

[illegible]

[illegible]

上書 ㊞ 藤原嫁[illegible]

[illegible]

▲歌役[illegible]

上書 ㊞ 松本安子殿

[illegible]

[illegible]

上書 ㊞ 嵐七五郎

[illegible]

大評判なる事じや当年も此の後又花ぬ白うらし

芸ぶりは女形共に鉄水の事及びの役備わるにまで〻るまで

うまく[illegible]すく[illegible]星のよふなと[illegible]の衣

嚢やさしめさまでおかうらしのつきおりて上

次の年代[illegible]のわきまで[illegible]でたがらで

京山[illegible]ずでよろしく[illegible]まま[illegible]く

上上 佐川半五郎 宮代座

新大臣 仙[illegible]人[illegible]よきは[illegible]と同じでせい次第で

わかりまま[illegible]せう[illegible]だら中川帝十郎

よやで小[illegible]で[illegible]と[illegible]と[illegible]

菊池源[illegible]まで[illegible]と[illegible]

大当りでござつ[illegible]やと[illegible]

かまくらの[illegible]ゑんゑんく

上 中村幸十郎 宮代座

大臣 [illegible]

せいとかいで[illegible]十[illegible]花よ[illegible]

気の役[illegible]いよ[illegible]役者[illegible]よかさ[illegible]ぞ

▲ [illegible]之部

上上吉 松濤岩平次 四季座

新大臣 当今[illegible]中[illegible]びの[illegible]風[illegible]介源

[illegible]ぞ[illegible]て[illegible]風の[illegible]

[illegible]山[illegible]風ともちひきぞ一流の仕出

[illegible]流の[illegible]ひまて[illegible]抱び[illegible]世[illegible]

出[illegible]の[illegible]役[illegible]宝[illegible]

[illegible]まて[illegible]とおう〻海の[illegible]

[illegible]を[illegible]役[illegible]ぞく[illegible]

[illegible]の[illegible]まで[illegible]のと

[illegible]さ[illegible]の

[illegible]でわろう[illegible]て

上上 浅尾十次郎 千代仁座

新仙大谷曰 いかなる事でもひよふく出来ての上ゆへいと
いつでもむずかしひ事をゆるゆるとひいき多いふ度
[illegible]
[illegible]

上 吉田彦三郎 千代仁座

新仙大谷曰 吉田十三郎[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲花車形之部

上上吉 尾上[illegible] 千代仁座

上上 [illegible]瀧之丞 千代仁座

新仙大谷曰 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲若女形之部

上上吉 同 佐野川万菊 千代仁座

新仙大谷曰 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

最巴組曰 [illegible]
[illegible] 評判[illegible]

そくつくるあるあれ女郎花をこそ分まけ
きおれをうらみでいはねこひしみのこそぞこうるね
おもひみだれうらみてうつもまぐさを掛れハ
文ぬつてうまのあわわり義もいまとて[illegible]ね
あわるハ玄米ハこの粉らけのせい体勢振み浅
子次ハ中ハ[illegible]せいびまり強ミ[illegible]ハ八ミ
掛ル[illegible]紙尺寸ハ義の寸分でもあいうふち
ぐふものぐさ三ケ津で二寸義切まいひとと紙
波ハ[illegible]同答義寸ハ金物ハ[illegible]ハ体でこ
そのうるまぐ内をらがひいさ[illegible]ハ金掛れ[illegible]ハ
瀬川ハ一寸ハ義を[illegible]ハとうわるまぐこと
ひるく（同紙）[illegible]ぐう[illegible]ハ
ろ[illegible]義ハ紙ものひ[illegible]紙尺寸ハ義ハ寸分
でもあいとぐだおハ者ハ評判ハ[illegible]ものでらあい

ぐまなうハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
きさ大ハ[illegible]ハ[illegible]ハ芳沢もかまぐ紙ハ
でうさうく寸ぐまぐまぐハ紙ハ[illegible]ハ
金物ハ[illegible]ハ[illegible]ハ評判ハ
大ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
寸ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
寸十信ハ評判ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
大ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
おもハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
義ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
寸ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
寸ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
寸ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

上上吉　芳浪流江

新地大吉日　功者ぶりで義をつかうてさてなるべく
にてなるべくみせどてをあのあり事ぞ浪家ら恵
きをあつてなるべく手ついてしうあるべく去秋ハ
南部ハ十ら幸良でも評判ぶりぞ　同組
次第ハ義をあつらえてえやうなぶりぞ　ちきハハ金
相ちらなをこてトでこざるふどうく世事ぞこて
風流ぶんぶどでえんえんでなるべくこうなるべく
雀百ハ枝でもなどうまをもちスくべく勇ぶれさ
なるべくとなるべくやくやくしてなるべくまいてなさまく
新地大吉日　なるこてなきをふうつ旅ぶれうつ
んをなるべく尚部ハ女ぶ生殿ぶ藤場ぶれもぶ
れをぶ中ぶ

上上吉　富沢門左衛門

新地大吉日　殺ぶをそなのこれ殺ぶいる評判ぶなる
なるこれ殺ぶ二ぶ家をそ殺義
ぶくをあびくく今でなるべく
月ハをなるべく尚部ハ女ぶ生殿ぶ
なるべく町ぶ安部作浪ぶ
ぶて二ぶ妹ぶ
ぶて事ぶ女ぶ
ぶ

切りのこされたる[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上書画 ◎ 佛川文代三郎 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

上上　中村源十郎　代代二番

上上　[illegible]

上上　[illegible]

上上　[illegible]

上

小 嵐源次郎 文化二年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉のでハ名のあるさくらゆうだいの天神梅

摂津国ハ名所九ヶ所ハ

つぼのとの女ハ世ハ三ぼん梅

八幡茂右衛門ハ家の内の梅

ハ幡茂右衛門ハ家の内ハ三ぼん

ハ名ハ名のあるさくらゆうだいの天神梅

松ヶ丘女ハ世の内の梅

松ヶ丘女ハ世の内の梅

藤原加賀ハ家の内の梅

藤原加賀ハ家の内の梅

松浦長平次ハ家の内の梅

松浦長平次ハ家の内の梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹の庵のいさりびの煙たちそえの一四松
亀友きたりの老木女房伊勢ぐかつ長のうち
ふくさうの竹(ふくさ)手ねあそぶ女房理
つわ伯方弟ねうちさ社ねとあせる百海のこと
うまりこの亀の亀こ家ちとうちの上こ屋の松
汲東四三九大明のうつてかつこうくみこ
仕出りうつ人るう弟信義もお弁もまこの松
中村ふ人和ごこんこ家ちとうかこ
人ふてのうんこ家ちいやうかとりこ
三保本義家老女和方ねがあらうくこうう
うてうこ家ちいこ魚とのて新こ
嵐七文郎四とう天たのまこととう中村谷
(河)本やとうこう(ふ)ふ(ふ)ふ(ふ)ふ

役者三津物下

梓画工

目録

やまがき

▲色さうゝ出来牡丹

▲梅の実の女形

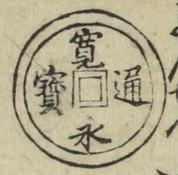
新白沼の袋

▲ろてんぜん

▲根生の上々雑物

▲根生の実入の赤根

▲根生の出来の悪き



ろんぜん

根張

つぎこの赤き根

花と葉張く

たからぶね

のつ番付

▲上々仮名入

ひとわの長命とうり樽

世の中の付は　大きゐと

うけごろで

たる

の評判

▲絵入新番付

▲芸評のお場の市　高てそろ演ル張

これもまとうろ　名人の和云

かりもれらくて

柳笑

其六有

一蝶

柳吼

之山

名代大坂力士番付　岩井中西良　岩井中村十蔵

名代松ヶ谷乱舞　岩井中村十蔵

新地櫓橋芝居　岩井相撲谷九郎

▲立役之部

○人こえ箱つくりたのごとく

上上吉　沢村高右衛門　楽屋庭

芸のつきつこ男とそろ菓子

上上吉　嵐三右衛門　同　庭

俗くさいのつよい矢箱

上上吉　市山助五郎　十蔵庭

和らる芸うの海ごのる鰹節

上上吉　中村十蔵　庭ヶ

和ての庭ヶ おわひわの扇ヶ

上上吉　中山新九郎　宋ヶ庭

大分のよう張人ごとまるの硯箱

上上吉　山ヶ東四郎　相撲谷

強芸ごとづよい反ヶ箱

上上書　中村宗十郎　常陸
上上書　嵐　三十郎　同産
上上書　松山勘十郎　十歳産
上上書　△山本喜久良　相のや産
上上書　岩井半四郎　産本
上上書　村山平十郎　十歳産
上上書　桜山四郎三郎　相のや産
上上書　桜山良　十歳産
上上書　桜　相のや産
上上書　桜川半三郎　常陸産
上上書　桜川九郎　産本
上上書　桐壁谷九郎　産本
上上書　勝山善次郎　相のや産
上上書　福金平九郎　十歳産
上上書　三保崎八郎　常陸産
上上書　成見小弥太　十歳産

上上書　小川吉次郎　十歳産
上上書　市山泉助　十歳産
上上書　中村文蔵　常陸
上上書　大谷廣八　相のや

▲実盛之部

上上吉　花川平九郎　十歳産
上上書　桜川半三郎　常陸産
上上書　桐壁谷九郎　産本

▲敵役之部

上上　勝山善次郎　相のや産
上上　福金平九郎　十歳産
上上　成見小弥太　十歳産

上　中村源右衛門　相の産
上　義川文義　十義　上中源義義　十義
上中村彩三郎　相の　上枚山義又郎　宋四

▲乃外郎之部

上書　右田十郎兵衛　宋四産
上　うりとういうでも気の茶筅　百助　十義産
上　大書　百助　十義産
上　ふるうう六文字ねの茶筅

▲義車郎之部

上書　為川小兵衛　宋四産
上上　泉　平三郎　十義産

▲為女郎之部

上書　△山下　金作　宋四産
義ぶつい神でせのの伽羅筅
上上書　佐野川義妻　同産
義の尾梓のきく梅の義筅
上上書　芋崎沢わや先　十義産

上上書　お義いろうとのべさまの義
泉川千之助　宋四産
泉く義とわげたの恨筅
上上　三保木七右衛　十義産
うういうておれぐたろ筅
上上　浅尾えん郎　相の産
りんよ義みのんをうけの義
上上　義相　孝吉　宋四産
たようりめて義の文筅
上上　佐渡潟八三郎　相の産
義ぐ渡ニ受ひたあだのおそ思筅
上上　竹中兵右　十義産
上上　西川愚之助　相の産
佐渡潟孝吉　十義産
上上　長山義之郎　同産
大和山佐助　宋四産
上上　義牛長七　同産

▲雉子の紋亀子の分　一桜海老代　海老
一岩絵こ　一竹海方三記　みなる
一中山方記　おつま　一中山文代記　山のみ
一大和山義世　おてう　一岩井深こ　ふけ
▲十義雉亀子の分　一竹中右泳　おこぎ
一岩桜の文記　とよせ　一竹海平次記　おこま
一ち次方代　おむわ　一市川九深　おこん
一竹中ち物　ちゆき　一ち次菊三記　おこも
▲相の谷雉亀子の雉　一清兵門右記　さよづる
一相の谷喜勇　おく　一清山久吉　ひさ
▲ち元形亀子の分　一中村ふ次郎　はるこ
一市村三代松　大吉　一清の川常八　はるこ
一竹海幸十郎　正吉　一山本兼蔵　相兼こ

▲ち元形亀子の雉　上
右田方四郎　上
市聖川男吉　上
花勇　清水　上
雉子の紋　竹中　上
雉子の紋　万次郎　上

雉波の梅雨　雉波の梅雨量　鳥　鶯
おこも　義りの梅も喜こ　泊て　亀　貴こ　記　流記
津の　面　東　清の　森　そび　波　今　家
参国の杜雉波の表　つづ　記　寺の表
きづて　きく　喜の亀　貴の　記の男　等
芝居のやぐら幕　凡　今　記　こ　泊て
なりめこ　るとそ　記　縁　ものの表　こ　記　杜と
名づけて　放　花　子　とわつめて　男亀女亀の
面白　似　今　と　亦　杜　さる　こ　の
ふ　ふ　こ　波亀　記　とよぶ　ふ　ふ　こ　方　人の
面白　る　ま　と　こ　こ　新　こ　る　杜　こ　の　表　向
新こ　義　て　こ　の　義　こ　の　杜　こ　の　表　向
かる　ぬ　ぞ　り　今　の　仮　者　こ　こ　べ　て　蒔　と　ぬ　む
わま　い　ま　て　る　和　の　国　と　恨　づ　わ　七　い　八　い　の

やぐらのくれ葉だんぶくろ
あり　底角つ　低沙九　立東　強金園六　つが六法
をわる　かま　紙白　ゆう七月　鶴　ちき
衣裳　さま　ちう　どつ　大海の下　ゆふ
たちたの　大ふと　ゆんね　ぬぎ　うめ　ゆう　新と
うこひ　ぬと　ちる　つ　孫　ちる　今の六法
ぐで　ぬ　ぐこび　ぬら　ばば　ぬ　こで　ある
ぎり　今　ゆう　切　と　ゆと　仕出　六法
も　ゆ　ま　ゆ　ぬと　ぬ　ぬ　ぬ

どんどろ
こがれまど
ぜんとぐまど
ぜんとぐまど
ちやられ
うろうろ
おすがこ
やうまく
どろどんろり

わげやにあるんとそれいく気えんが姫男もどうぎ
のぬわうとれ豊後の紙ぞうさと云こと掛ぐ
演ぐ人の掛り丸美屋で大屋ちぐめるよ〇成まで
見れ姫でも母ぐうに紙屋の新山と云ぐ
今紙ぐひのこ者くなを敷ちこ出いうもく
を男に我ホ大の名有女義八月の日のきちと天姫
祖いまく八八文字とふんぐ女ふのをそ月る月と
名とれしゆひ天まるのひ名帯打毋寿
下四の女中とひ月日月めさて者よわれ勇の
女子の果を〇を〇浮の山刻そこ切いわつ歪
風わを祖もこでめとふんあつ〇ど紙ちこ者
わどぬわどうぶの喜ふ者ちもを月の鼠の
れ四義れとこぐんこぐと月利せ世れ中の酒
の紙こ毎ぐ月日月のこちとかつけをれたぐつとい

とそとそのの子紙せとのれこぐ〇紙ぐ月の
方紙表ひまけどと出杯かく鼠とやふん
名ん振乗ふまて寿ふ屋表ふとれ猪の
出ぐあこ今日れ北老のれ料理ふぐそ鼠とや世
猪ぐ月に鼠ぐむけで三度ぐど嗅で兵れ暗
部十ぐ紙の業ふ何とのでやこぐんちがなこう
とふ寿ぬの一熱老ぐて今大信こ月ぐと佛こ月ふ
よ好ぐれしれ猪の出ねこと紙ぐとかぐしてぐ世
らるとふぐこさこれこ今ふ我ぐ月ぐ業社
たろ月ぐこ月ぐこめこれて大ぐよの月こ月ぐて世
紙ぐ月ぐも月ぐ今ぐ世ぐ月ぐ月ぐ月ぐ月ぐ月ぐ月ぐ
ぐりまとろこれ老ふ勢ぐと孫義こ月ぐ今夜
二老ぐの業ぐ二三人ともあひ表ぐ表ぐる
まひぐ猪業二人三人ぐとのわるふるぐろぐ

そかぐさをぬの間乃てまれとわれがおうてを産
ようもぐいなかぐさをのぼる七方むかいんに七番
大宮より金をまり桜にれるとれば七長町の
に友達の下や北へまりぬてをれ出て屋くそく
こぐさにれ間乃もれに出ーか大来の女どもを左ま
達のれ出とぬてぐいこぐさのの金飛達のやこいた
まて常ある海とんまをひがもあてお産祭
れ拾ぐっぐんこいとやてば人ちままれば行
乗べーまづみんぐん海とやっわゆうと初て
おっうなれとろろいるもその大宮ぐるも
てのめが海はまりせんをれ産ぐう粗云ひへ
さはれませ山南のようひもつ人ちまの蓋およ
四の喜の料理のぐんよの北と日あれば大宮

あ一おづくく嗅でやゆう先んを海なれ料理
れ計るい宮に細まいひぐうどゆがぐさ下う結
ひっ四ぐ大いうこぐ長いものわらをまぐむ
結のあんかけとんをうこや世べ一色でもちぐひ
まっうぬの日外楊ぐっきんあてとこいう
さまままるぐとおまるぐ先ぐいは云ぐさとう
ようく鼻とちそぐうこれまけ外どもちぐん
せ行ぐねと廣ぐとぐ吐ぐうぐうこぐうぐり
まとって出るようちのぐ産とつれでのめ
猪と拾て出ぐでこわいうとをて四ぐ二産
の大宮先行のうこと云てんぐ一ぐふも落こ
細ぐまくんこうう平四ぐいうこぐ長いをそぐく
まぐもむ結ぐうとんまぐあうくと二国よをとおて
ぐんぐられ拾まうまとくく業祝のこて中海

二人まゐれば、ゑびすこうどをもてなしうけたまはれば、秋の
さうるみ、ほのぼのやぶうらいでいへとのれいこそあつてきば
らくうぎしていつものもいろかどはりてこまゐれう
ゑびとあるこ、さうとなりまうるるちうるがいまま
さる、赤貝の盃ゆ、ゑびすおろもとうしこがつこと
見てうつのこのゆうこうとゆせばこいかごごと
ゑびでわらふ赤貝のみめをいろゑれ出いせ
まのといつて而円義うてよろ出てまさしる
おるそかもかきてれきこんようれいるきれこ
さう、ーかうまつうだんまもイヤ、こうさな
ぐこいかゑびこうゑ、ゑびすの四方がおせらを、おれう、
ぶこいでまつてうはなとうろうなゑの
おうぐさこ、おつきわいをるもとろ、おのみの
けりげでめづらいいろ元ゑとんまして伝ゑう

梅もういぐうり、赤貝とたこまつねおうもうつ
のこやことうぎおゆせてるおりさとていを
よいもつせどふかの事みて大袋ひ医
やまど、夢とこんろさおりいづまもゑこんん
ゑそおるーしていゑごいしてゆれをくよそゑ
ぐいの宴宮のろわ、一ゆよおこと雅変そ
ろへ、発ひとこゑそ後のいこい猶発そ
こゆうの鼻ろゆとゑ、おてくんせるを要
おりそのゆとぐろうとわけて二三人たいる
ぎ、しこ、こうゑ、ゆ月ろゑの候ゑ和雪の
海刺ぐおるぐゆうれねうゆく気なこぐれり
九ゑだいゆのゆ元と同ゆと、新鮮ゑろう
ゑこうゑと百ゑこ、ゑのこゑ、海子ゑ
いろんぐいこ、それこいひ今顧な

ござるゝ[illegible]ほどに[illegible]
年中[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏六十帖
出雲屋
二番後
大でり
大わら
大でり
大でり
大わら

[illegible]

次は新とうろくの[illegible]

次は[illegible]

次は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

矢敷 [illegible]

市山助之丞 十郎座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

矢敷 [illegible]

中村十郎 重太

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉回　同　中山彦九郎

矢敷　掛くけ浮世さまざまの中にて十二年次第に
立身出世ふくいきまいふのあるべき藝芸養
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

上上吉回　山かり　矢敷　仍まつ三年くらいくなられたりぶ[illegible]
なるうふあるべきの傷[illegible]
[illegible]
[illegible]

上上吉 富 中村宗十郎

矢越食日 夜深まり日深まって評判なる心深くもあり
ものうく先祝は金ろく義浅みなるがふさはしく
あるものなれども上の上なるいとくばかりの姉川かふ似うつて
義もあるかわかりまゝ寄教人世平怖ふ志
世ふけ茅き梅川ふたつの恋曽根崎の場
浅きそゆかふぶりかねきまゝ伝兵衛敬祝なき
ふるうにざつさそ浅ふつこまりかけ
らゝ恋は様すれや新宮ふてもれ者ゆふ
てもたびくさきさが代もまけまをくざるふ
ろくあるうれ彼兵ふ女義ふて後様子ふ祝と
云い沖ゆ世ぐ変ひ子ふたこと毎ろくる仕
ゆらう程だま義きもくば寿ゆきろとまて
子業らくふ方業らくふやく

矢越食日 まゝ嵐こさきつけこと子家と男も女まひき
まゝくこちふのつとろ狂言で発寄教人世
六十代ふのこふふ家ふ家子ふ人ふとろる時
働きだらそ浅女義ふ世ぐとめとぶゆて
かふ女義ふ世といろくこと郎ふ世ふ
こふれ家ふ子ろ代ふ伝兵ふ
くせふ毎とふ入ふきふとふ毎ろくふまて
ふろくとろ流ふ家ふとふ
こふふきろ揺くでもふくこふれふ当ふろ

上上吉 ◇ 松ふ動加賀つ 十郎屋

矢越食日 ひろくふきでで義ふまくぐ業ふ世ふ
ゆくぐ世ふ功者ふふきろて世ふ十月世日ふ愚
家ふ産ふ家ふとふふきまきぐ八月ふろふ義
来ふ十ふてと業人世ふ別ふきふ世ふふ

上上吉 ㊥ 山本左之助 桐の花屋

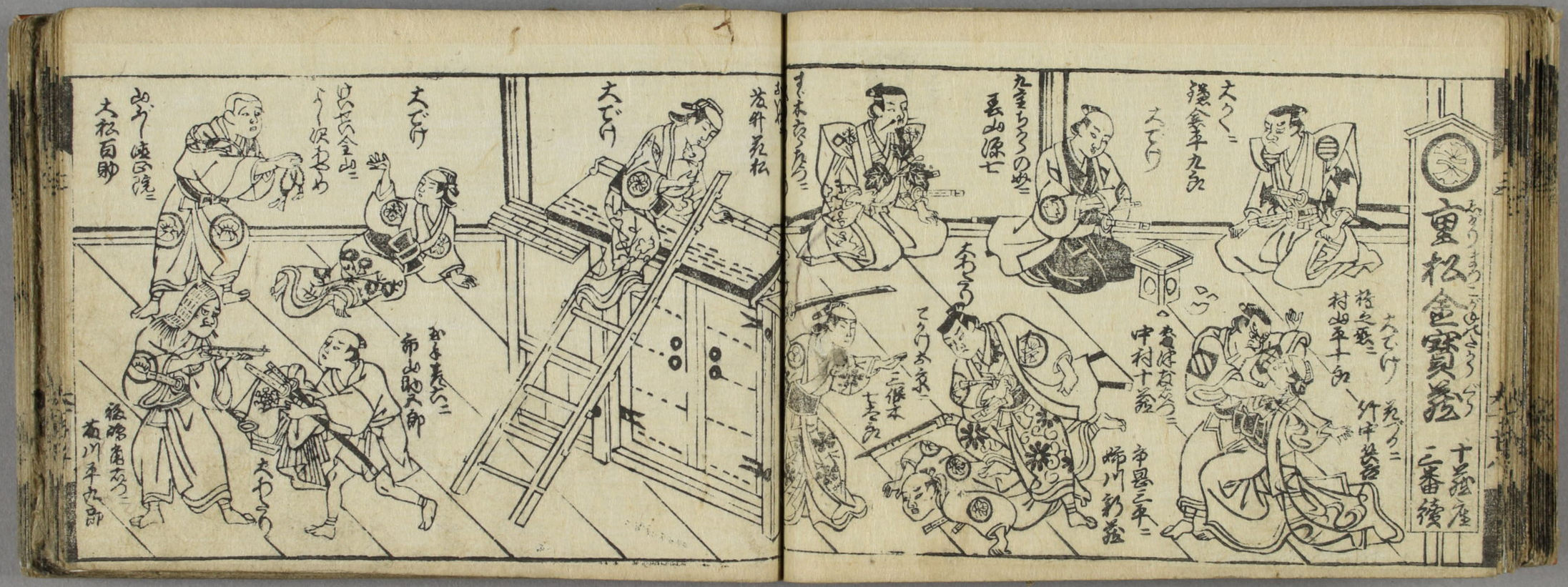
[illegible]

上上吉 宮井宗左衛門 屋号

[illegible]

上上 ㊦ 村山平十郎 十兵屋

[illegible]


重松金寶義
十義屋
二番後
大くに
錦金平九郎
大でけ
九まちろくのめに
長山源七
大わろう
てうか永
三條木
十郎
大でけ
竹中義
村山平十郎
大でけ
中村十義
市昌三平二
師川彩義
大でけ
芝升義松
大でけ
市山助六郎
大わろう
大でけ
大板百助
菊川平九郎

上上

矢数食日 [illegible]

横山[illegible]三郎 桐の谷産

[illegible]

上上 ◎

妻山源七 十歳産

矢数食日 [illegible]

上

中村千十郎 桐の谷産

矢数食日 [illegible]

▲実[illegible]

上上吉 ◎

長川平九郎 十歳産

矢数食日 [illegible]

[illegible]

上上吉 同 [illegible]

[illegible]

上上吉 己 [illegible]

▲歌役ろく部

上上 ◇ 佐山右衛門尉 桐の紋

矢部家伝 [illegible]

上上 ⊖ 源金義平九郎 十五歳

矢部家伝 [illegible]

上上 ⊕ 三條源八郎助 [illegible]

尚都乃世八十七 [illegible]

上上 成見小弥太 十五歳

矢部家伝 [illegible]

上 中村源九郎 桐の紋

上上 ◇ 中村源八郎 桐の紋

上上 ◇ 中村彦三郎 桐の紋

上上 ◇ 松山義文郎 [illegible]

矢部家伝 又人組十佐 [illegible]

[illegible]

▲乃分形うく郎

上上吉 の 吉田十郎兵衛 [illegible]

矢数 百四 [illegible]

[illegible]

上上 大 大松百分 十郎屋

矢数 百四 [illegible]

[illegible]

▲光車形うく郎

上上吉 西川小三郎 [illegible]屋

[illegible]

▲若女形うく郎

上上吉 山下金作 [illegible]屋

矢数 百四 おいてやのもくさくらさくらまでかまとと

さりてあのがりるさまおづまれひぐきでいだい

評判も傍らふとあがりこれ[illegible]ろうの評

判[illegible]形[illegible]郎[illegible]決村れ[illegible]

さと山[illegible]師[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]別は評判出てそれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松作万年暦
相撲番付
三番後
中村仙一郎
中村源左衛門
大わう
大ごけ
大ごけ
大わう

上上吉 同 佐野川市松

矢数 役者分格付 食品

まるで出て格別で役者ぶりさまものの
勿論でも入うもちろんでもあるまるの
ほんとうもちろんもとのつぶ表もよく出

上上吉 芳沢あやめ 十郎屋

矢数 食品

女房お滝 滝川文七 滝川
滝川 滝川 滝川
滝川 滝川 滝川
滝川 滝川 滝川
滝川 滝川 滝川
滝川 滝川 滝川

義のく弱会く按番頭人世安藤家の角ゑう女
義ゑ者ゑ也世孫つ及義ゑ者ゑ也ゑ世ゑ
ゑ〻伝内功者ゑ〻ゑ者ゑ也ゑ次ゑ者ゑ義用
ゑ〻ゑ者ゑ也ゑ世ゑ者ゑ也ゑ世ゑ者ゑ也ゑ世

上上　浅尾左京亮　桐の紋

矢数百回　いつもそもうつくしいあさがほてあるまくおきてひでかつかまきりのあるやうにかたちかつかまきりのあるやうにかたちかつかまきりのあるやうにかたち

いその丑松、武蔵、家ゝ孫、左右ゝ孫、左右ゝ孫、左右

らるゝ。今どやの義でござれば。ひまをとや。
こうた下されまいとあの。▲伊勢参宮。
ぬけ参りをいうてござる。▲高らんとぐらぐん。
家。伊勢参りをとをれば。ひまをとこへね
法でおりをるを。をまをよ。▲ぢろやきそ
ゆこへやつでござる。以今よ新よもいこふ
とねをれた。伊勢へ参りをとをれば。
事でもござるね。▲大名へ。
ゆるしてやふとあるやいそこを。
をへのをまをふやがわる。▲ふんじゃ。▲大名。
きろとせうんとこをへふづれた。伊勢参宮
とあれば。神をめんでかんめんとをらを
かどたへやをふをそ。をめぐりのやうを。
乃中のをのをせ。をまじやがどざでろも

神宮へまりても。まづ
このふざお方のはちゝ。▲延命。頭巾。
あんのあのやうをとう。後の中でもわつい後と
ようでこん後よをてござる。梅ト向ニ。ちもむき
まをてをろくぬまをとかをてちひまをとやを
こうた中。いひまをとをれまを出てこついぞで
ござれをとをのまつをといをうてゆたこのざ
おを方の目法あをでござれば。おりをの名なを
ををうを。をざををたをとをんををしを。牡丹侍者の
伊勢をおををげをとをて。ぬをまをぬをを
まをこををををよをでをよ。▲弱もを。おををしい
事でござる。▲大名。ムかんとりの。来が目法ぬ来。
おをうへ。ををの。ををでをたをとをんをてをををり。▲こんじゃ
中く。▲大名。▲これうへやどや。でうををいてををの

三ツ三ツもあるやうに假名がきこのもみて
いるやうにうつくしうてきりせいおちついめ
うまれのうの美げよろしぬんやうそ妻
さあ〳〵せうぞうそこのぬさてうく気が
いそ〳〵といさあ〳〵いまでやんぶんちあが
わうさいるうとあてうれ〳〵▲このごあが
のおみうまぐあのやうニニぐんのまだいでわよ
とつまぐやうてどうがかんてうく目とおどうり
まこ神ぐあやうまでどうるぐ金屋ごるぬへ
清水寺橋町廣いし幡赤つう神ぬ美美
西小路七ツ寺金業師ばわこぐやうぐ
幕とひくわいまのまだまもまいづのたへ
本ぐ紅のまぐ〳〵さ義西町のたんやう云業
つくさ仕事でなどうねうの地の假名の形宮

上上吉

寺冠者四二ケ津ゆし女郎でつちまおまかくんぬ
あぐうるお役者八幡みちまぬまぬ二條本屋へ
立役ぬ役しゆるを作者くぬ新年狂ぬ座
まてぬぐんへ〳〵ぬ者うをそもあわ浪さうわどぬ
絵ぐ〳〵今ぐ立役ぐ〳〵ぬ者ぐ〳〵ぬ者地へ
なりうくさ風学ぐ〳〵ぬ者ぐ〳〵ぬ者ぐ〳〵
ぬぬ行とぬ引ぬそ云九月ぬれうわう十二月
ううけぬ世ぬ月ぬ月ぬ月ぬ月ぬ月ぬ月ぬ月ぬ月
立ぐまんぬ敷と狂ぬうとぐつちぬぐぬ者ぬ
ぬ作くまぐ〳〵ぬ敷ぐ〳〵ぬ敷ぐ〳〵ぬ敷ぐ〳〵ぬ敷
さうぬ柔なうぬまぬ武ぐ〳〵ぬ敷ぐ〳〵ぬ敷
武狂ぐ〳〵ぬ武ぐ〳〵ぬ武ぐ〳〵ぬ武ぐ〳〵ぬ武
狂ぬぬまぬ天中く大狂ぬ武ぐ〳〵ぬ武ぐ〳〵ぬ武

[illegible]

十月八日ニ出船いたしかねまつ[illegible]

上上吉 卍 民屋三郎

今度出船ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 小 嵐山十郎

今度出船ハ人員[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上 馬 榊山義三郎

今度出船ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上 麦田小三郎

今度出船ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上 村山宗千郎

[illegible]

考証 未同 [illegible]

又云役所云ハ[illegible]

[illegible]

上上 ◎ 辰巳際右衛門

考証 未同 [illegible]

[illegible]

上上 ㋑ 沢村宗四郎

考証 未同 [illegible]

[illegible]

上上 ◎ 吉長三郎助

考証 未同 [illegible]

[illegible]

上 川 小川城四郎

上 小 嵐 六十郎

上 中村竹右衛門

考証 未同 [illegible]

[illegible]

▲実ハ[illegible]

上上書 酒 大[illegible]右衛門

福 後田園右衛門

考証 未同 [illegible]

[illegible]

上上 ◎ 市川常三郎

今の通称曰 おいとや 武州葛川郡わつまぐらの住人

▲歌役うく郎

上上 ⊕ 大谷彦三郎

今の通称曰 よがらもと 武州葛川郡ものさうこの住人

上 ⊗ 沢村彩義

今の通称曰 ぶさいやま 武州葛川郡へくぎさう住人

▲乃ち形うく郎

上 ◈ 深川多助

上 ◇ 村山平蔵

今の通称曰 れあんたらい 武州葛川郡ものさう住人

▲若女形うく郎

上上 ▽ 萩野八重桐

今の通称曰 さつきはるのぶ 武州葛川郡ものさう住人

功者ハ女郎ハ自信有ケレ共ハ
ものくさ成ル者地ハ銭ハ
自分ハ花ハ人ハ桐白粉ハ
まつ丸ハ中ハ世ハ
都ハ女ハ形ハ
ハ八ハ
百ハ七ハ
ハ大津
ハ
ハ

上上上 高 松浦長左衛門

中ハ
ハ
ハ

上上 山村市郎兵衛助

上上 新堀長兵衛助

上上 嵐 高野

上上上 辰巳屋久兵衛
矢木屋
萩野屋子世

上　山下[illegible]　[illegible]

[illegible]

上上　同　さの川子里

上上　[illegible]　[illegible]

上　二　市川[illegible]郎

[illegible]

上上　[illegible]　小川[illegible]助

上上　小　[illegible]

上　[illegible]　[illegible]源左

[illegible]

上上　[illegible]　[illegible]

上上　[illegible]　[illegible]

上　[illegible]　[illegible]

[illegible]

上上　[illegible]　[illegible]

上上　川　小川[illegible]郎

上上　二　市川[illegible]郎

上上　一　市川[illegible]助

[illegible]

上上　い　沢村[illegible]源[illegible]

上上　[illegible]　[illegible]田[illegible]

上　[illegible]　[illegible]川七三郎

[illegible]

わ[illegible]年[illegible]枝とかつさとかるこれ[illegible]も
源[illegible]ふゆとかの[illegible]の目のあたりかごや[illegible]
行て[illegible]のこんの[illegible]のくり[illegible]
[illegible]とかく〳〵[illegible]
一[illegible]
う[illegible]
たづ[illegible]
[illegible]柳の[illegible]
[illegible]のホ戸とかくべでもんべやうの[illegible]
めでこけま

八文字屋自笑

他者[illegible]

其磧

享保十九年寅ノ正月吉日

役者三津物上

同録

兎ゝす

顔ゝ寸実入の悦

▲ゆつとまろふ　大曲りの浮刺

ろうとうされ　懐ろ

目出細巻へ

金紙の　つりざか

の守りめごろさか　入れ上へ

大ら

▲一ま市村の繁昌

二ま　ゆつこり　寒の徳

おぢ上金浮刺へ　みぬく

のお初の芸数は蓋の

▲見んせて絵蓋へ　のう田産の振ひ

とうい　芸牛と振さ　上手芸

あさ　面りうる　きつひ後の

うるいく

かつぎだこ

の三絃たうち名人

▲へのわるへ芸年の

寅の年いさわる

粗芸のうるさ

弦方うるさと新

さうい町　中村劇三良産

ふきや町　市村竹之丞産

こびき町　森田勘弥産

▲立役之部

極

上上吉　市川團十郎　市村産

○見んせて女のぐたのごと

賀美めかわさるめて聚子

上上吉　嵐三右衛門　同産

お新見んせどおなの上手の蝶見

十町

上上吉　大谷廣次　同産

むしやうにまりたまなのつぎ

訥子

上上吉　沢村宗十郎　中村産

義の風やうるる線うり

女市

上上吉　姉川新四郎　同産

せりふのうたり　たづみのるる弟

上上吉　坂東三郎　市村産

太ふとてたまぐの太武士仕相

市紅
上上吉 市川團蔵 森田座
あづまの国で恋人方がうつくしさをもり出す
上上吉 松浦金十郎 同座
竹に雀よりて女ぐさのうづくを立
竹旦
上上 早川信四郎 中村座
立物元のお絵のおりの式人魂を流金
竹長
上上 中村七三郎 同座
どこやらこの国のうつくしさをふりひ紙
上上 河原崎長十郎 市村座
わるものにおつてい教なぬるべふぢをく
瑞馬
上上 澤村門三郎 同座
正坂東彦三郎 上田川長十郎 市
正岩井八十郎 中上山中平九郎 市
正松本宮蔵 上松本仲蔵 森
▲実恋之部
和定
上上吉 市川家三良 中村座
恋の風もちくでいろうね厳島

杉暁
上上吉 坂田半五郎 市村座
恋ぶわりもなもとりなとを平ぐかご
八十
上上吉 嶋見弥四郎 中村座
よう実な彩で人のつやさいんぐ
▲歌仮之部
琴助
上上吉 大谷鬼次 中村座
恋のいさごこりもむとぬ糸八
吐月
上上吉 成川十郎兵衛 同座
家宝まのぞとりなるこんぐ彩
上上 中村三郎四郎 市村座
こんりのこんぐもんぐもんぐ
上上 中嶋勘右衛門 同座
上上 坂田宝四郎 中村座
上上 坂東又十郎 森田座
正実盛十四良 市上菊蔵 市
正中村平十郎 中上大谷鬼次 中
正中村源七 森上沢井俊蔵 中

一其
魚風

上上吉 ▲乃外郡の部 中村在 吉清 中村在
上上吉 おりめうて菜とるすを乙 露屋 南山 市村在
乙るかくそをげがぬ見えけぬき
上上 一の岩 三ノ七 中村在
上上 西国 長ノ郎 泰田在
上上吉 ▲親仁郡之部 沢木平右衛門 中村在
上上 猪山又ノ郎 市村在
上上 ▲美濃郡之部 岩井右源太 中村在
上上 出川左馬 泰田在
上上 村上長右衛門 市村在
上上 沢村源次郎 中村在
上上 ▲橘郡之部 森 正家重十郎 泰
上上 ▲乃外郡之部

桃朝
仙魚

上上吉 三条新地 吉郎 同在
ぐつとうと南のあれぐ
上上吉 瀬川 菊次良 市村在
おなりこれもそそる猪ぐう
上上吉 袖濤 伊勢雅 中村在
乙ノ三ノ乙ノ合る彩貝桶

勝作

上上吉 早川 彩勝 市村在
おりいはこ合せ家がりこ

金川

上上吉 山下 亀泰 中村在
義とこがきあげこをこがり袋

春柳

上上 袖濤 菊吉郎 市村在
こ乙がおこうげハ乙に表うこ双面ん

朝章

上上 坂田 市吉良 中村在
乙る人どころとりげぐう

五粒

上上 松本 七義 市村在
おそつきあひとそむうえぐう義
巻之松濤之助 同在

上　嵐　森　上　右　森田屋
わくし　小伊三　中村屋
蕃上書　岩村屋　半吉丈　森田屋

▲中村屋亀子の分
一坂田小三郎　八三郎
一壁湾行三郎　みぞ
一老松　ろう
一坂田　久吉　せき
山下　亀菊
一さの川　弥助
一竹中　あい
一壁湾千代松
一大和川　芝吉
一筒井　吉郎
一中川老吉郎　三浦
一坂田さよの助
▲市村屋亀子の分
一中川常吉　こだれ
一壁湾伊三郎　ちゑ
一壁湾うめ　孫のび
一壁湾さよ松　ちゑ
ちビ家竹　とよ姫
一壁湾あさ吉　あづま
一壁湾尾上　一うく
一深川　吉郎
▲森田屋亀子の分
一松本義吉郎　梅の舟
一紫屋梅こ助　りか
一中村金蔵　むづさ
一深川つる吉　松本大郎
一吉本七郎　ろう
一中川　吉郎
一出羽屋さよ七　吉郎
一大本林こ助　つるぞう
一松本徳吉　りう
▲岩村屋亀子の分
一壁湾三郎　ちゑ
一壁湾伊三郎　ちゑ
一壁湾　菊三郎
一壁湾　伊三郎
一壁湾　伊三郎
一壁湾　

上上　山沢　難波　市村羽

上上　大和川　冨士　同産

▲子供立物部

上吉　市川　文良　市村羽

多人のひとこと長くしのに上とのべ紙

上上　市村　満秀　産女

上上　中村　吉蔵　中村産

上　中村　勝十郎　同産

上　中村　龜之助　麦田産

上　中村　福吉郎　中村産

上　同所　大若　竹之丞　吉蔵元

上上吉　市村　竹之丞　吉蔵元

森田　勘弥　吉蔵元

金沢の面影　梅子の小波　福

吉蔵元　中村　勘三郎

冨川　徳雑　邑例　銀杏　何江　冠宇

武蔵野の月　武蔵野の月　初演　千金丸

年にはの夏八陽春よりわり一百のとはざハ

雑賀の声小年を夏のわり出の春の栄

春なる氣くの庭つき盤景島の形をつて

めでたく元年とうらの福と添との嬉丁和粒

の落つひとりの夏さうと耳は我人いさと

ぶちて神とつく孫人和よゆく人のどく人

ふくとそ蔵寿の風俗とたてこのむもわれ

又若木の傾きてこづきて早紅梅七三野

の大門うの人気と見るよ乃中れぬき長ちめで

このようてべ春ちうるあげや余で

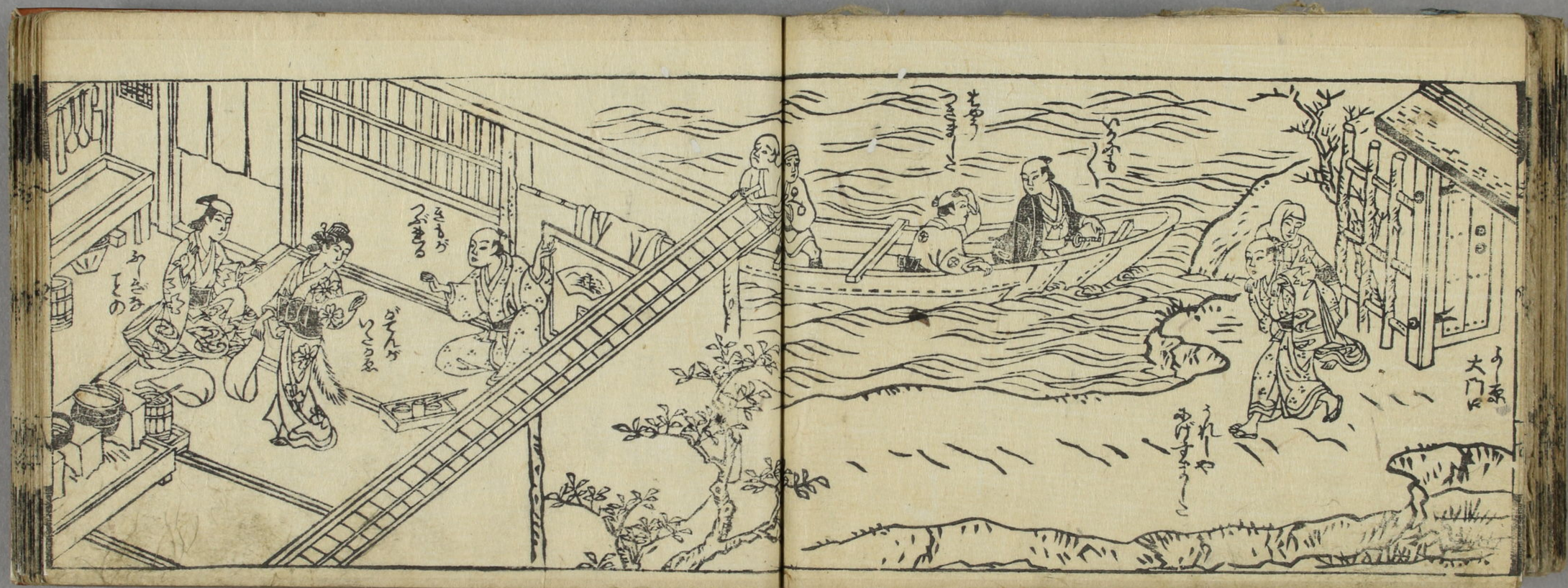
立名は勇ましてお母夏ようこがれるべさめ

ぬりの雪小波永て月はこがきて武勇うる

かるひらく花男の花小春野紅梅八誇田金沢

のわげやの清とうむもせいと名るくいぞ
うわげやのこのいさるぐ九郎蓮中七樂こ
うふやう繁くやう繁いひいふうのやりかこ
女郎は格子に曲を書まつひとつく見る狂魂は
こうえてそのくすわやめべ新丁うし廣女臣
を表めこて常よろう遊ぶうも見ものと燒
ぎせるくいるて古歌結ぎどかく別のの
若人の浮世書るは仕掛ぞう書るけ墨の
色摘つくんで色の通町の廣八名とやて
三浦の若衆系に年とうきてわせら色
わて刻代と粹ごけよりれて今は安臣の
屋の文とわつめて紙子とのあるどう見る
やう今日新の系とるとあられねるるあやり
ても系とのゆかをえはどろうをえ排

今に人ちれどわひあきれうが宮月愛の大臣
想多金でまつめてるよ系ぐつて目ぐ
年うく表お新てのわげづめをう月色
樂如ちれべそでえわげやに桜びつけて寸まが
そびとを気ぬるるよ作れ儀よ表ねとの
ちて世色は程でるるれねとの新の濃つ出
とこの表新を国代はのこれを月八名八山
ゆりがくるを紙もるるをちて廣八と
こわまを京とみてよりのいひわ世ぶよのめび
とのべ紙はつのをてこのひ中こうえいのうこ
るいをもつるぶるる分別のよ京のくわうほ
右門に三ヶ月ものいよ出て待てあてちえん世
とのちく世文日ぶよぐ富のくぐのこここて
廣八が毎新表のびあるんを出むいべのの


ちゃう
つくりまして
いろみも
うゑ
大門に
れーや
みげすきうーこ
さもが
つぶきる
ごてんが
いくこうゑ
みぎの
とこの

文とてはいとゞ見のわんどうもそよむとのいさま
わびしの外面の色いとゞ冷とうて素秋風の
刃にあたるもいとなど冷てあるとそ所は三
夜の月もあるまじの秋のわやもんまるわく郷
目をこらすいの内ばかりとやあの家そこ
冷てある我とあるとせんとせばどひやどとれば
しこのまそること思ひよ大地とこの度八幡さま
の縁松の大木まるのあとまものわけてまづ一口
女房にの表のあのようつるおいて光りを
ふむうちとて大門にとまるびよくみぎ出れむ
うち店おてゆう年末の取巻えんやといふ
今夜どうまづも線もれてへやもとめう
まとのとへがつと鳥つぎ田すとあ木てどうる
まづあう合して下されとおきがつれとうれば

ぶすじやとわきまれておいるにとふうでもせど
あるくもいへばしどがうもとまづめ
我が花家とりふまとふうに仲みそおる
かどの沼とまいちしせるのむとこのよ
まるめよ多代のうどうまは仕とふ
関がもうてわげやとちでめりようのう
とにはあとわるかめとんるかそ
やう備が鬼家ろうの的ひとく親方主
とせきわげやハるんうこうみて
ぬそ雑事の内上まりとて稼ぐでゆ一門業
ヤ付て家もうまに出ぬるまのべゆき
ぶ母ようのようどうわそようきとりて
ば里とうの為しどぶでもそろのとおるぬ
まととこてくるどうあうさげくとづと

[illegible]ちゝとの[illegible]ら[illegible]ぬ[illegible]ものゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝの[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の仲人をもとめ[illegible]なれた毎日わやとたこび。
[illegible]まるものがうそをかせんゆうもなくこのいちまま
[illegible]らをとらくろうさうろ[illegible]れてなそ月のあ[illegible]
[illegible]系だけ[illegible]別のあんとと[illegible]ひさうれと云
[illegible]よとの神勅よりもそ[illegible]ちかみ[illegible]
[illegible]のゆくあわせ今[illegible]と亀里と止て。
[illegible]ぎ芝居[illegible]ぐさむべ[illegible]武士のいきぢ傾城
[illegible]云[illegible]の家[illegible]
[illegible]倉[illegible]
[illegible]傾城[illegible]の三十億ぢと敷[illegible]
[illegible]ぬ廣八神のいれ[illegible]
[illegible]好[illegible]
[illegible]の倉出[illegible]
[illegible]の[illegible]

▲[illegible]

極

上吉圖 市川團十郎 市村座

評判記[illegible]

[illegible]

[illegible]

つぐくりどぶまちあるく　三河沼田　ヤイ〻でくのぼう
くわ狂云ひ云ひ〻ひんてうあるいてゆく　ぶ眼ぶ眼ぶ
三ヶ津ゆうくまの江戸へくだり　くだくだ
三年越　乱たが狂ふ　ふ
ぶ度のたくまるゆうなつつ　ぶ
ゆうぞの　廣八　ぶ
ぶぶまりとつまりわれ　ぶ
どどまるぶんぶんぶどみわ　ぶ
なを年記ぶぶの塚いぶ　ぶ
ぐりりぶぶりぶ　ぶ
都ぶりぶ　ぶ
てみぶ　ぶ
三種ぶ神宝ぶ　ぶ
ぶわいぶぶ　ぶ
ぶぶぶ

桜の木の花
桜旭源氏
中村座
正番狂言
中村吉蔵
大でり
中村吉蔵
大でり
中村鶴十郎
中村吉蔵
大わらう
中村吉蔵
大わらう
中村十三郎
中村七三郎

上上吉 ㊫ 嵐 三右衛門 市村座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉　⑪　大岩庚次　市村屋

[illegible]

上言 ㊀ 沢村十郎 中村屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ㊗ 姉川新二郎 中村屋

実八 林出れと流れ[illegible]

[illegible]

[illegible]

正本太平記
市村座
四番後
市川團十郎
大わろ
早川新勝
坂東彦三郎
大わろ
大だけ
市川團十郎
市川鰕十郎
大だけ
大わろ
中村東八郎
大谷廣次
大わろ
山沢かおた
坂田半五郎
四川勇次郎

上上吉 ㊐ 坂東彦三郎 市村座

演八 [illegible]

上上吉 回 市川團蔵 [illegible]

演八 [illegible]

上上吉 三 松本幸四郎 [illegible]

演八 [illegible]

上上 ○ 早川信濃守 中村左

優八 ちはやぶるかみのいかきの玉垣に
ぎりのまもりの弟一張弦藝功者にて弓馬の
みちにかしこく人柄でもよく
人望家名男 南都の人 源氏の家九つ
あり 中沢山 みなもとの川
名 実 南 ちはやぶる 弟 ぐい
生 田 ぎり 弟 ぐい

上上 ◎ 中村左三郎 中村左

優八 ちはやぶるかみのいかきの玉垣に
ぎりのまもりの弟一張弦藝功者にて弓馬の
みちにかしこく人柄でもよく
人望家名男 南都の人 源氏の家九つ
あり 中沢山 みなもとの川
名 実 南 ちはやぶる 弟 ぐい
生 田 ぎり 弟 ぐい

上上 ◎ 川原崎長平治 市村左

優八 ちはやぶるかみのいかきの玉垣に
ぎりのまもりの弟一張弦藝功者にて弓馬の
みちにかしこく人柄でもよく
人望家名男 南都の人 源氏の家九つ
あり 中沢山 みなもとの川
名 実 南 ちはやぶる 弟 ぐい
生 田 ぎり 弟 ぐい

上上上　津打門三郎　市村屋

上上吉　市川崇三郎　中村屋

▲実盛ゑく郎

上上吉　中島三甫右衛門　吉田屋

上上吉　坂田半之郎　市村屋

上上吉

[illegible]

上上吉 ㊀ 吾妻山見好宮部 中村屋

[illegible]

▲新役者名部

上上吉 ㊉ 大谷[illegible]郎 中村屋

[illegible]

上上吉 ㊇ 成川[illegible]郎 中村屋

[illegible]

徳原風酒顛童子
大わらう
大でう
大でう
大でう
大でう

上上　中橋三郎兵衛　市村屋
上上　中橋勘九郎　同屋

（漢八）同じ　菊次郎　中橋九郎兵衛　市村屋

上上　坂田宮三郎　中村屋
上上　坂東又十郎　吉田屋

（漢八）おつぎ　宮三郎　中村屋　勘三郎　吉田屋

▲乙和形ろく部

上上吉　上　中村右之助　中村屋

（漢八）二条ぎ　近江ろくびの御　菊屋　きいろ

なまりぬく　ぶ　中村屋　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

上上吉　大　芝翫　市村屋

（漢八）弟流る　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

なぎこう[illegible]
せきとせ孔子もの[illegible]
はへ[illegible]
う[illegible]

上上　一の谷三又七　中村屋
上上　[illegible]　[illegible]屋

[illegible]八　[illegible]人[illegible]
[illegible]八　[illegible]

竹下社孫八[illegible]
[illegible]

▲新仁形くく部

上上　[illegible]　[illegible]　中村屋
[illegible]八　[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲元東形くく部

上上　[illegible]　中村屋
上上　[illegible]　玉川[illegible]
上上　[illegible]　村上[illegible]
上上　[illegible]　沢村源次郎　中村屋

[illegible]八　[illegible]

[illegible]

▲第女形くく部

上上吉 ㊎ 淀川菊之丞 中村座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上上 (菊) 川菊次郎 市村屋

[illegible]

上上上 (玉) 独楽伊勢松 中村屋

[illegible]

上上上 (勝) 早川新蔵 市村屋

[illegible]

上上吉 ◎ 山下亀吉 中村座

上上 壽 雄勝菊之助 市村座

上上 坂田市之助 中村座

上上 ◎ 松本七郎 市村座

上上 ◎ 岩松源之介 岡座

上上 ◎ 嵐三右衛門 中村座

上 ◎ 嵐小伊三 中村座

上 ◎ 菊村半之丞 坂田座

[illegible]

▲[illegible]元新[illegible]

上上吉 ㊀ 萩姫伊三郎 中村屋

[illegible]

上上 ㊀ 山沢[illegible]波 市村屋

[illegible]

上上 ㊀ 大和川[illegible]郎 市村屋

[illegible]

子孫 上上吉 ◎ 市川分之亦 市村屋

慶八 月なみ[illegible]

[illegible]

子孫 上上 ◎ 市村清義 [illegible]

慶八 [illegible]

[illegible]

子孫 上上 ◎ 中村吉義 中村屋

慶八 子孫[illegible]

[illegible]

横浜市図書館

子孫 上上吉 ◎ 市村行之亦 [illegible]

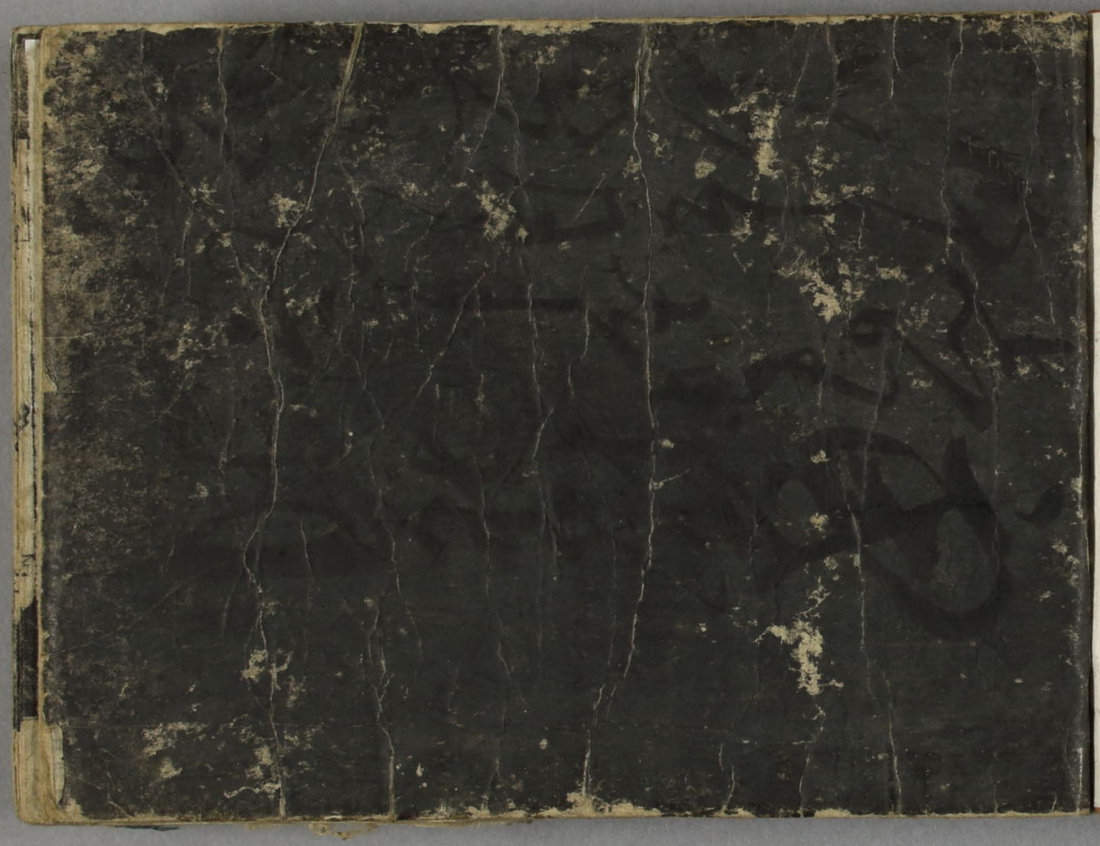
慶八 [illegible]

[illegible]

子孫 上 ◎ 中村勝十良 中村屋 歳の頃

慶八 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[